

1. はじめに

2009年4月6日午前3時32分頃（現地時間）にイタリア中部ラクイラ(L'Aquila)において $M_L=5.8$ 、 $M_w=6.2$ の地震が発生し、多数の犠牲者を出すなど、大きな被害が生じた。ラクイラはイタリア半島の脊梁山脈にあたるアペニン山脈の山間に位置し、標高675m~900mに位置する。日本人にはあまり知られていないが、山間の寒冷地であることから、夏の避暑地やウィンターリゾート地としてイタリア人にはよく知られた観光地である。ラクイラの歴史をたどると1254年までには独立した一つの市として形成されたと言われており、長い歴史を有している。Abruzzo州の州都であり、人口は約7万人である。

今回の地震による犠牲者は294名（4月12日現在）、負傷者は1,000人以上と言われており、被災地では、ほとんどの住民が当局の撤去命令によりテント村等に避難している。ラクイラ市では数棟が崩壊、被災家屋数は数千棟に上ると見られている。

地震後、(社)土木学会、(社)地盤工学会、(社)日本建築学会および日本地震工学会は、4学会協同による合同調査団を現地派遣することとなり、グループによって多少異なるが、著者らは2009年4月18日~21日にかけて、ラクイラ及び周辺地域の現地調査を実施する機会を得た。

以下には、4学会合同調査団がみた被災概要と一部被災メカニズムについて紹介する。ただし、建造物の設計図書や図面等を持たない外観からの被害調査であったこと、また、ラクイラ旧市街をはじめ周辺の被害の著しかった地域は行政機関による封鎖のため、立ち入りが厳しく制限されていたことから短時間の調査とならざるを得なかったことから、被害状況及びそのメカニズムに関して著者らが正しく理解できなかった点があるかも可能性がある。これらに対しては、今後、さらに継続的に情報を入手する必要があることを、最初にお断りしておきたい。